

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 27 No 10

314号

令和 1年10月14日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

季節外れのインフルエンザ

院長

先日の厚労省の発表によると今シーズンは立ち上がりが高く、9月22日までの1週間で全国約5,000の医療機関から報告されたインフルエンザ患者数は5,716人で、昨年と同じ時期の10倍近い患者数になっています。1医療機関当たりの報告数が1.0を超えると流行の始まりと定義され、東京など既に10の都府県で1.0を超えています。クリニックの周囲では8月末に保育園でA型、9月初旬には小学校(3年生)でB型の集団発生があり、学級閉鎖の小学校も出ています。昨年も夏に流行が見られましたが、この時期にA型、B型とも流行することはとても珍しいことです。

通常インフルエンザの流行は気温と湿度が関係し、通常は12月から3月に流行します。それなのに、なぜこの時期に流行が始まったのでしょうか。気候温暖化のせいなのか、ラグビーワールドカップの影響なのか、それともウイルスが変化したのか、暑い日が続くのにインフルエンザが流行する理由については、いろいろ言われていますが解明されていないのが現実です。ある専門家はインフルエンザが迅速診断で手軽にわかるようになったからと解説しています。迅速検査が使用されたのは1999年なので、かれこれ20年近く使用されています。以前は夏に検査することも少なく、たとえ検査しても陽性例は極めて珍しいことでした。皆さんも覚えている2009年の新型インフルエンザ流行(H1N1亜型)の始まりは5月で、夏の間も流行が続きました。ということになると迅速検査が理由で夏のインフルエンザが増えたということにはなりません。ましてや良識ある小児科医は夏に高熱が出たからといって盲滅法検査をすることもないでしょう。

9月9日から始まった小学校3年生での流行を考えてみましょう。かかりつけの家族3人が順番に熱を上げて、9日に2ヶ月児が発熱で受診しました。さらに姉のクラスで、同じ9日に4人欠席という情報が入りました。家族が次々と、さらに姉のクラスで4人、合わせて8人がかかるのは集団カゼ=インフルエンザしかありません。受診した2ヶ月児を検査したところ、B型インフルエンザと確認されました。その後3年生のクラスでは5日から25日の間に欠席者は17人となりました。当院でインフルエンザと診断したのは人だったので、他の医療機関ではインフルエンザを疑われる

こともなかったようです。17人もの欠席者が出たことを集団カゼと考えれば、他の欠席者もインフルエンザだったと考えられます。8月末には保育園の20人クラスで4人欠席したので検査でA型と確認されました。どの季節においてもしっかり情報を収集していれば、名医はインフルエンザを見逃すことはないのです。以前、ある小学校のクラスで10人欠席し、5人はインフルエンザ、残りはカゼなので学級閉鎖にならなかったことがありました。我々小児科医はインフルエンザかどうかより、集団カゼ=インフルエンザとの認識が重要と考えています。となれば10人は全て集団カゼであり学級閉鎖すべきだったのです。診断に頼りすぎる弊害の一つが、こんなありえない話の元になっているのです。集団生活の現場から「検査してもらって」と来院する子がいます。集団で流行し1~2日の間隔で発熱した場合は90%以上の確率で臨床診断が可能で、あえて痛みを伴う検査の必要はありません。検査は本人のために行うもので、他人の指示や親の心配を理由に子どもに苦痛を強いることは避けなければなりません。

最後に診断について一言。家族内感染者、クラスが学級閉鎖の場合には、1~3日の潜伏期後に38~38.5℃の発熱があれば、90%以上の確率でインフルエンザと診断していいと考えています。これは発熱後6時間以上経過した迅速検査の感度と同等です。ある病院を発熱直後に受診して、検査陰性にもかかわらず抗インフルエンザ薬を処方されたとか家族全員検査をされたという相談を受けました。陰性でも薬を出すなら、最初から検査の必要性はなかったはずと首をかしげてしまいます。また家族全員に痛い思いをさせるのは、「検査代」という言葉が脳裏をよぎります。

治療には、内服薬・吸入薬・点滴(注射薬)の抗インフルエンザ薬が有効です。昨年は新薬が発売され、大きな話題になり大量に使われました。新薬の作用機序を考えると理想的な薬であることは疑う余地はありません。だからこそ重症のためにとっておきたいの思いがあり、小児も含めて重症以外には慎重投与と考えています。当院では発売前から耐性の問題に危惧を持っていたため、昨シーズンは他の治療ができない児1人だけ処方しました。治療薬にどの薬剤を使用するか難しいところですが、かかりつけの先生とよく相談して、利点・欠点を理解し選択したいものです。

最も重要なのは予防ということは言うまでもありません。空間除菌を謳っている二酸化塩素製品(設置・スプレー・吊り下げタイプ)に関して一言。実験では閉鎖空間浮遊中のウイルスを確実に減少させますが、インフルエンザの感染経路は飛沫・接触感染です。空気感染はわずかなので、空気清浄機も含め空間除菌のみで予防効果を期待するにはかなりの無理があります。今年は早めにインフルエンザワクチンを接種し、従来通りの手洗い・マスクなどの予防策を励行し、普段からバランスのとれた食事、そして十分な睡眠を心がけましょう。

10月のお知らせ

・臨時休診のお知らせ

26日(土)午後「仙台白百合女子大学白百合祭」のため休診となります。

・栄養育児相談

2・16日(水) 13:30~

栄養士担当



『子ども・子育て支援の都市仙台！ ネウボラを仙台に！！』

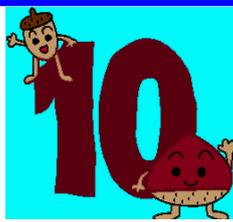
読者の広場

先月はわずか1通でしたが、先月のNEWSが半ばまでずれ込んだので、9月号に掲載済みです。もう一つ10月2日は院長の誕生日でした。何故かは秘密にしておきますが、次受診したら年齢当てクイズです。

さてと、ギリギリ発行前に届いたメールを紹介します。ある意味かなり深刻な内容なので、個人情報特定されないように最大限の配慮しました。目的は、かかりつけの患者さんにはこんな対応をしていることを理解してもらいたいためです。

「おはようございます。大変御無沙汰しておりますが、先生はじめ院内の皆様、御元気でしたでしょうか？本日は、現在高校二年生になった息子の事でお伺いしたい事が有り、メールを送らせて頂きました。先週10/4金曜日、整形外科に首の痛みで受診しました。レントゲンと問診・触診で腰椎捻挫と診断を受けました。骨に異常は無く、薬は貼り薬と痛み止2週間分頂きました。その原因が【担任教師に、後ろから首根っこを二度飛ばされた為】の様なのです。他にスポーツもしておらず要因が見当たりません。首を引っ張られたのは木曜日のホームルーム中だったらしく、机に伏している息子の後ろから襟首(ネクタイ有り)を二度引っ張ったらしいのです。しかし、引っ張り方が酷かったらしく、見ていた周囲の同級生からも「親に話した方がいい」と言われ、息子も話してくれな様です。このように、担任の先生からの行為で受診して、ケガをした患者さんはいらした事が有りましてしょうか？その場合かわむら先生はじめ、親御さんほどのような対応を取られたのか…もし、事例が有りまして、教えて頂けると助かります。今まで、我が家の子ども達は学校でケガをしても【必ず担任教師から連絡】が有りました。なので、今回の件に関しては担任教師に対しての不信感がつっております。何処に相談して良いか判らず、金曜日から迷っていましたが、夫とも「やっぱりかわむら先生に聞いてみよう…」と意見が一致しまして、御迷惑かもと思いつつ、朝からメールを送らせて頂きました。お忙しい中申し訳ありませんが、どうか、宜しくお願い致しますm(_ _)m」

院長の回答は次の通りです。「メールありがとう。お陰様で、私はじめ、スタッフ一同元気です。まずは当院の患者さんで、明らかに教師が原因で怪我をしたケースはなかったです。このような相談が診察場面であれば、現実にメールも同じですが(笑)次のように答えます。まずは息子さんの怪我は整形外科の診断書もあるので、動かしがたい事実です。ただしこの怪我が担任によるものか証明はできていません。保護者として子どもの怪我の原因を明らかにしなければならぬはずで、ということになれば、ネクタイを引っ張った事実、さらには同級生(目撃者)がいたわけですから、経緯と診断について学校に伝えるべきと思います。犯人を捕まえてどうしようというのが目的ではなく、事実を認めて謝罪してもらいさえいいだけです。ことを荒立てることは得策ではないので、教育委員会ではなく、学校側(学年主任、教頭、校長)と面会して伝えたらどうでしょう。もちろん穏やかに。というのが意見です。参考になれば。」これが患者さんとクリニックの関係で、院長が求めている姿です。羨ましいでしょう♪(´ε`)



10月2日は院長の誕生日

多くの方々からお祝いの言葉、特にFacebookでいいね！150以上。100人を超えるの方々からあたたかいメッセージをいただきました。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

ありがとうございました♪(´θ`)/



2019年度 仙台白百合女子大学
人間発達研究センター講演会

小児科医だからこそ伝えられる
命と病気のお話

～感染症・ワクチン・性教育・虐待…そして Advocacy～



講師 山田 和久 氏
仙台市医師会理事、仙台小児科医会会長

10月26日(土) 14:00～15:00
仙台白百合女子大学 1号館 123室

主催：人間発達研究センター
2019年度研究プロジェクト「産生期と栄養学教育」
連絡先 学生課 (gakusei@bwhs.ac.jp)

白百合女子大学園祭の講演
どんな話をするのか
聴きに来ませんか

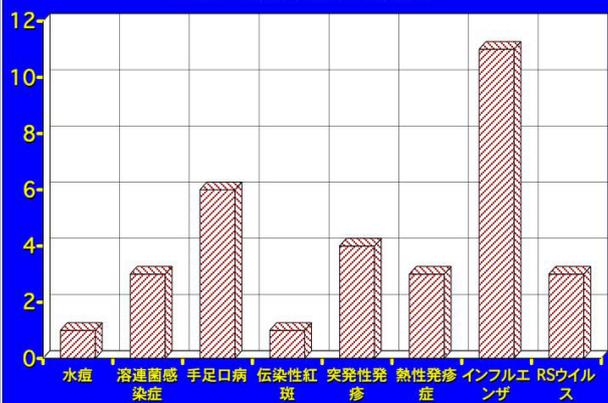
緊急風しん抗体検査事業・第5期風しん定期予防接種 (2019年3月15日開始)

対象者は、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性(概ね39～57才)

風しん抗体価陰性を証明できる方。他の方は抗体検査により風しん抗体が不十分な方が定期予防接種の対象となります。抗体検査・予防接種費用は無料で、成人であっても当院で実施可能です。(平成34年3月末日まで)

パートナーだけでなく、周りにいる男性を誘って、社会を守るために検査と予防接種を受けてもらいましょう！！

9月の感染症の集計



大流行していた手足口病ほとんど見られなくなりました。他の感染症は少ないのですが、注目すべきはRSウイルス感染症とインフルエンザです。通常RSウイルスは11月頃から、インフルエンザはその後12月から流行が始まります。インフルエンザに関しては一面記事にも取り上げましたが、全国的にも流行期に入りました。この流行の理由はわかりませんが、インフルエンザ予防接種を、今年は早めに開始します。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は800人を超えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

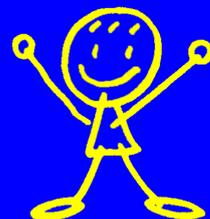


MailNews

Facebook

編集後記

本当に今年の夏は暑かった。地域によっては台風、豪雨被害で大変でした。さらにこの時期になっても30℃を超える地域も珍しくはなくなり季節感がなくなってきています。2面のポスターを見ましたか？ついに女子大学園祭デビューです。こう書くといふ加減なおじさんのイメージですが、大切なことは小児科医でも大人に伝えられる大切なことがあるということです。もちろん別な意味もありますが(笑)



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！